秘

サイパン島失陷ニ際シ

南洋興發株式會社 社員小村末松氏手記

戰爭調査會事務局

301

国立公文書館
National Archives of Japan

前書

コノ記録ハ昭和十九年六月十一日米國海軍ノマリアナ群島襲撃ヨリ十三日ノ同艦隊ノ艦砲射撃ニ始リ、昭和二十一年三月吾々民間抑留者ノ横浜上陸ヲ以テ終ル。

人類興亡ノ歴史ニ於テ、其ノ敗戰ノ陰ニ於テハ勿論ノコト、輝シキ戰勝ノ陰ニモ多クノ筆舌ニ盡シ得ヌ悲慘事ヲ見ル、夫ハ人類ノ一世紀又ハ二世紀ノ間ニ於テ經驗シ得ザリシ樣ナコトモアリ得ルシ、特ニ個人ノ歴史ニ於テハ創家以來其ノ血族中ノ何人ニモ嘗テ發見シ得ザリシ恐ミキ体驗デモアリ得ル、吾々マリアナ群島ノ民間人ハ夫ヲ体驗シタノデアル。誠ニ恐シキ体驗デアツタノデアル。

此ノ期間中ニ吾々ガ体驗シタ悲慘ナル出來事ノ數々ハ國家ノ歴史ニ於テハ勿論ノコト、個人ノ歴史ニモ史ニテ記錄サルベキデナイ、何トナレバ其ノ記錄ヲ讀ムモノニ對シ決シテ良キ影響ヲ及ボサズ、寧ロ夫ヲ讀ム者ヲシテ目ヲ覆ハシメ、同情ト嘆キノ餘リソノ樣ナ狀態ニ陷ラシメタ當時ノ政府ノ制度ヲ怨嗟スル結果トナルコトハ必定デアル

ルカラデアル。又記録ヲ書クモノ自身ニトッテモ非常ナル決心ト勇氣トヲ要求セラルルカラデアル。

然而コノ記録ハ何処迄モ公表スベカラザル、一個人ノ記録ニ過ギズ、此ノ戰爭中ニ悲慘ナル最後ヲ遂ゲタ妻ノ靈前ニ供フル爲、妻ト私ノ血族ニ私等夫婦ノ行動ヲ知ラセル爲又私ガ多クノ同胞ト更ニ妻ノ死ニモ抱ハラズ、何故オメオメト生命ヲナガラヘ收容者ノ身トナッテ内地ニ帰還シタカ、ソノ辯解ノ辭デアル。

二月二十三日ノ空襲

「マリアナ」群島ガ敵米英ノ本格的空襲ヲ受ケタノハ實ニ昭和十九年二月二十三日デアル、尤モ以前ニ於テモ幾度カ偵察機ラシキモノハ来タ模様デアリ、又在住民モ再三再四警報ニ悩ミ苦ンダノデアルガ、実際爆弾ヲ投下サレ地上施設ヲ破壞サレタノハコノ第一回ノ空襲デアル。

「マリアナ」群島ガ本格的ニ実際的ニ對空防備ヲナシ始メタノモ、コノ空襲以後ノコトデアル。「サイパン」島ニ於テハ、「オレアイ」「ハナデル」ノ二ケ所ニ滑走路ヲ民間ノ勤労奉仕、或ハ協力ニヨリ完成シ、其ノ後ノ予定地モ選定サレタ、又「テニアン」「ロタ」「グアム」ニモ夫々数個所ニ完成或ハ予定サレタ。敵上陸ニ備フルタメ陸軍ハ續々増派サレ陣地モ構築サレツヽアッタ。夫ニハ海上ニテ敵ノ潜水艦ニ襲ハレ人命物資ニ多大ナル犠牲ヲ拂ハレタノデアッタ。

二月二十三日ノ空襲ハ全ク敵ニ虚ヲ突カレタ形デ、「マリアナ」群島ハ全ク敵空軍ニ蹂躙サレタノデアル、我方ニハ飛行機モナカッタノデアル。常日頃吾等ガ上空ヲ飛ハシキタ戰闘機ハ特ニ吾等ヲ如何ニカ強ク感ゼシメタカ知レナイガ、例ノゼロ戰ハ眞地ノ戰ニ參加スベク「サイパン」「テニアン」ヲ後ニシタ、ソノ虚ヲ突カレタノデアル。

物ノ力——特ニ米國ハ同時作戰ヲ敢ニシ「トラック」「ラバール」ヲ襲ヒツヽ吾ガマリアナヲ襲ッタノデアル。

地上砲火有リトハ云ヘ全ク敵空軍ノナスガママデアル。吾等在住民ハ切歯扼腕、茫然トシテ眺ムルノミデアル。併シコノ空襲ニ於テ五百万ノ損害ハ南洋興發ノ「イチニアン」製糖工場ガ相当手荒ク爆破サレタニ止マリ、軍事施設並ニ人命ノ損害ハ僅少デアッタ、コレガタメ空襲後多大ノ犠牲者ヲ省ミズ、全島挙ゲテ陣地構築並ニ対空設備ノ完成ニ邁進シタ。併シ、今ニシテ思ヘバ此等ノ努力ハ全ク遅スギタノデアル、陸軍ノ駐屯ニシテモ、今半年早カリセバ当「アリアナ」ガ斯ク迄悲惨ニ叩カレハシナカッタロウ、「ギルバート」諸島ヲ奪還サレ、「マーシャル」「ケゼリン」「ルオット」ヲ占領サレテカラ始メタ「マリアナ」ノ本格的設備開始ハ遅シギハシナカッタカト云フヨリモ、先ズ攻ムルニ安ク、守ルニ難キ、太平洋ノ小サナ島々ニ対シ吾軍ハ余リニ戦果ヲ擴大シ過ギ、守ルヲ軽ク見過ギタノデハナイカ夫レヨリモ寧ロ、小笠原――「マリアナ」――「パラオ」線、「パラオ」――「トラック」――「ラバール」線ヲ完全ニシ、敵ヲシテ一歩モコノ線ニ踏ミ込マシメザル様策ヲ講ズベキデハナカッタカ、併シ之等ハ全テ結果ヨリ見タ、吾々抑留サレタ在住民ノ愚痴デアリ、素人戦争観ヨリ来ル処ノ結果論ニスギナイ。

◇

コノ空爆デ感ジタコトハ敵ノ機械力ニ於テ、量ニ於テ、我ニ立勝ッテ居ルバカリデナク、其ノ質ニ於テ、技術ニ於テ相当優秀ナリト認メラレタコトデアル。コノ日敵ノ戦法ハ「サイパン」ニ於テハ機銃掃射ガ主デ、爆弾投下ハアマリナカッタガ、前者ハ主ニ「グラマン」機、後者ハ「ノースアメリカン」ヲ以テセラレタ、特ニ「グラマン」ノ掃射ハ敵乍ラ壮烈ヲ極メタモノデアッタ、モウ一ツ教ヘラレタコトハ掩蓋ノナイ壕ハ駄目ダト云フコトデアル。特ニ私等民間人ニハ迚モ不安心デオラレナイ、假令木ノ葉デモイヽカラ上ニカブサッテイナイト命ガ縮マル思ヒデアル、「グラマン」機ニ急降下サレ、ダッ〳〵〳〵ト打出サレルト思ハズ首ヲ縮メ、地面ニウツ伏ス、女子供ハ尚更デアル。

304
国立公文書館
National Archives of Japan

六月十一日以前

昭和十九年三月八十日、第一回空襲後、同年六月十一日、第二回空襲迄ニ於テ小別ニ危険ナルマキシーマナク同月十八日及ビ其後ノ間「コンリディト」数機編隊ニテ爆撃ニ来ル一部分、爆撃ヲ投ジテ飛ビ去ッタ、ミデアル、併シ彼ラ米軍ニ改ムサレテ見セラレタ、デアルガ、マリアナ、諸島、極メテ堅牢ナ要塞ニ成ッテ居ル「チャランカ」ノ北方、水タンカ沿ッテ居ル、コノ辺ノ海岸ノ線ニ、数ノ高度ニヨルモノデアロウ、コノ間、軍官民一致ニテ対空設備ヲ行ッタ。コレ等ノ日ナリ、十二、十三日ノ空襲ノ人機爆、前ニハ未ダ成力アルモノデナカッタガ、併シ改ムベキトコロハ改メタ、コノ間、後備ヲノバアル程度ノ間マスコトガ出来ナカッタコトガ、又家屋的空襲ガナカッタ、モット一層、死亡ガ多カッタノ遺レナイ。

◇

海軍関係会社ノ此ノ間ニ於ケル軍事施設、民間施設ノ配置ナル完成ニ対スル見ヒコル手段ヲ講ジタ、特ニ軍ノ施設ニ対シテハ会社ノ事業ヲ約ト中止ノ状態トナシテ之ニ応ジタノデアル。

海軍ニ於テハ従来、計林部隊司令部ノ上ニ南東方面艦隊司令部ガ設置サレ「マリアナ」群島ニ統轄スルコトハナリ、陸軍ニ於テモ新ニ第四司令部「マリアナ」ノ上ニ軍司令部「マリアナ」「グアム」ガ設置サレテヲ統轄ス。而シテ此等司令部ト民間トノ連絡斡旋ハシテ新ニ従来、軍需部、建築部ヲ抱ムル海軍第五建設部（五建）ナルモノガ設置サレ、此処ニ総務課ノ名称ガ設ケラレタノデアル。

私ハ興業ト五建トノ重役ヲシテ空襲訓ヲ始ク五建ニ通ッタ、之ガ為、興業ハ多年経営シテ来タ製糖業ヲ未完成ニ中止セネバナラナカッタ、疎開、食糧自給自足対策確立ノタメデアル、ノミナラズ兄ニ会社、施設、設備ハ軍ノ必要ニ応ジテハ何時ナリトモ提供、或ハ譲渡セネバナラナカッタ。其ノ主ナルモノハ軍馬飼育場ニ甚大造成ノタメ洗車、「トラック」「カレター」、燃料並ニ宿舎ノ提供デアル、コレガ為

会社トシテモ、従業員個人トシテモ一時非常ナル混乱ニ陥ツタ。一方ニ食糧対策ヲ急速ニ進メネバナラヌ、又本年度ノ砂糖ヲ作ラネバナラナイ、併シ夫レニハ最モ必要ナ輸送機関ハ自由ニナラナイ、個人的ニハ宿舎移転ノ問題ガアル、コウシタ最中ニ敵ハ来タノダ、除リ早カツタ、モウ半年遅カツタナラノ感ガ強イ

◇

此ノ間ニ於テ個人的混乱ニ就テハモウ一ツノ大キナ混乱ヲ語ラネバナラナイ。ソレハ二月二十三日ノ空襲後起ツタ問題デアルガ、家族ノ内地帰還ノ問題デアル、夫ハ食糧自給対策ニ役ハナイ、単見疎食スルモノハ内地ニ疎開シタ方ガイイト云フ官ヨリメ希望デアツタ、強制デハナカツタケレトモ「グアム」ニ於テハ強制的ニ行ハレ、疎開セザルモノハ食糧ノ配給ヲ中止サレル事トナツタ。又「テニアン」ニ於テハ殆ンド強制的デアツタ、此ノ問題ニ対シ一番議論湧キ、帰還ノ遅レタノハ「サイパン」デアル、耕作者ノ子弟家族ヲ帰シテハ食糧対策ハ不可能デアル、又指導者階級ガ早キ頃ニ家族ヲ帰シテハ悪例ヲ示シ一般従業員ニ悪影響ヲ及ボス、コレガ吾々ノ持論デアツタ、ソレデ遂ニ妻子ヲ帰スニ至ラナカツタノデアル、勿論当時「アメリカ」丸始メ頻々トシテ潜水艦ニ襲撃セラレタノデ夫ニ対スル恐怖モアリ、何モ早マツテ女房ヲ殺スニ及ハヌデハナイカト云フノデアル。

今ニシテ思ヘバ妻ヲ帰ス好イ機会ハ前々アツタノデアル——コレモ愚痴——私ハ「サイパン」支社総務課、農務関係ヲ担当シテ居タ関係上特ニ食糧対策——野菜、薪、豚肉、味噌、醤油等ノ関係ニ於テ陸軍ト密接ナ交渉ヲ持タネバナラナカツタ。前述ノ五建ノ出来ル以前ニ於テハ軍需品トハ縁深クテ一回程度ハコヤランカレ義巷間ヲ往復シタ、ソレデソレガ私ノ会社ノ仕事中ノ大部分ヲ占メテ居タノデアル、軍需部宇佐川主任ハ慶應ノ私ノ後輩デアル、個人的ニハ蔭ノ下傘部隊デ彼ノ有名ナ「ラーパンレ」「パリシクパンレ」等デ勇名ヲ馳セタ唐島部隊ニ知友ガ多カツタ、慶應ノ後輩デアル松下軍医長、先ヅ少佐、川崎、宮内両上曹等大イニ忝ミ且談ジタモノデアル。

北口少尉ハ特ニ立派ナ人物デ此ノ人カラ私ハ「クーパン」カラ副理事ヲ打ツタ切ツテ
持ツテ帰ツタト云フ彫物ノシテアル立派ナ椅子ヲ記念ニ貰ツタノデアルガ、今ハドウナ
ツテ居ル事ヤラ北口サンモ誠ニ申譯ナイト思ツテ居ル、皆サンハ空襲前ニ病気保養ノ
タメ内地ヘ帰ツタ。

六月十一、十二、十三日ノ空襲

六月十一日十二時十五分第一配備（從來ノ甲管制乙管制ナル呼ビ様ハ廃止セラレテ第
一配備、第二配備トナリ、名実共ニ軍ニ協力スル事トナツタ）ソシテ十三時十分、空
襲警報ガ鳴リ響イタノデアル　私ハ社宅デ妻ト中食ヲ攝リ、食後ノ一休ミヲシテ居タ
ノデアルガ、又偵察機ノ飛来位ニ考ヘテ妻ト共ニ、予テ用意ノ「トランク」ヲ持ツテ
庭ノ防空壕ニ入ツタ、デアル、併シコノ防空壕ハ友人ノ土地係ノ新田氏ガ指揮シテ作
ツタモノデ、家庭防空壕トシテハ完全ナモノデアル、所ガ空襲ハ偵察位ノ生易シイモ
ノデナク、戦爆連合ノ大編隊デ、アチラカラモコチラカラモ「ドカン〳〵」ト音ガスル、
、ソシテ相当大キナ爆弾ラシイ地響ガスル、「アスリート」ラシイ、妻ハソノ度毎ニ
生色ヲ失フ、防空壕ノ穴カラノゾクト時々敵機ノ銀翼ノ編隊ガ見エル、ソレニシテモ
友軍機ガ見エナイノハドウシタ事カ、又モ虚ヲ突カレタノデハナイカ、此ノ不安ノ中
ニ三時間、ヤツト十六時解除、穴カラ出テ、スグ夕食ノ用意ヲサセ乍ラ情報ヲ聞キニ
行ク、矢ツ張リ虚ヲ突カレタノデアル。友軍機ナシ。アツタ十数機ハ今朝早ク輸送船
ノ護衛ト「パラオ」方面ノ戦斗援助ニ出向イタトカ、ソシテ敵ハ大機動部隊デ、アハ
ヨクバ上陸占領ヲ企図セルモノヽ如クデアル、嗚呼又シテモ敵ニシテヤラレタ。此ノ
日敵ハ我ガ方ノ軍事施設ノミヲ爆撃シ、「アスリート」築港方面ニ相当被害アツタ如
ク、十七時ニ至ツテモ築港方面ニ重油タンクニ引火シタラシイ、黒煙ガモク〳〵ト揚
ツテ居ル、翌朝早々又敵機来襲ガ予想サレ、夕飯ヲスマシ床ニ就ク

六月十二日

四時空襲警報、此ノ日自分ハ在郷軍人トシテ職分ガアルノデ握飯ヲ持チ直ニグラウンド

二集合シ妻ヲ「ヒナミス」横穴防空壕ニヤルノ。グランドニハ山崎部隊長以下十数人アリ武藤、秋山、但野ト共ニ園畑壕ニ入ル、空襲熾烈ニ極メ民間施設モ方々ヨリ火ノ手ガ揚ル、「ガラパン」ト方面爆々タリ。「チヤランカ」ニ於テハ社宅ヲ焼カレ事務所壊滅、工場方面特ニアルコールエ場ラシキモノ焼ク、午後「チヤランカ」ノ爆撃ヲ避ケルタメ池ノ裏手ニ廻リ、民家ノバナヽノ根本ニ身ヲ伏ス、此処デ藤原重役、阿武課長、越智日課長後ニ上田課長、仲西氏等ト一緒ニナル。此ノ日重役ハ本ダ料亭ニテ歓ノ上陸ハナシト云フ。四時半頃「チヤランカ」ニ帰ル、妻ヲ横穴ヨリ帰リ来ル、夜ハ武藤、秋山、但野等ト「ランプ」ノ下ニテ今日ノコト、明日ノ準備ヲ語リテ、「ロタ」ヨリ持参ノ南ノ響ヲ飲ム、経理荒彦氏ノ夫人ガ、夫居ノ「デニアン」出張ニテ、淋シイノデ泊メテ貰ヒタイトノコトニ快ク引受ケ、明朝ハ早々起床シ「ヒナミス」ヲ越エント約シ就寝

六月十三日

起床三時半、外ハ既ニ未ノ明ルイ、アヽ、遅過ギタト思ツタガモウ止ムヲ得ナイ、取敢ズ朝食ノ仕度ヲサセ、前ノ家ノ若イ連中ヲ起シタ、大急ギデ飯ヲカキ込ミ、妻ト但野夫人ヲ連レ、前ノ若イ連中ノ居ル家ノ裏庭迄来ルト、トタンニ空襲警報デアル、止ム、ヲ得ズ暫ク其ノ庭ノ防空壕ニ入リ、コレデハトテモ「ヒナミス」ハ越セナイカラ兎モ角此処ノ家庭防空壕ニ入レテ貰ハウト云フコトニナリ、駆ケ出ス、トタン、タタ〳〵ト機銃掃射ヲ喰フ、アワテ、皆バナヽノ根本ニ打ツ伏ス、敵機ガ低空デ来タタメ、爆音ガ全然聞エナカツタノデアル、生命カラガラ部屋ノ壕ニ走レバ、壕ハドレモコレモ一杯ダ、コレハ昨日ノ空襲デ神社下ノ警防団本部ガ焼カレタ為、コチラニ全部移転シタノトイチヤランカレ駐屯ノ警部隊ノ一部ガ入ツタ為デアル、女子供ハ全部「ヒナミス」横穴ニ行ツタト見エ全然見当ラナイ、何ハトモアレ幾ツカノ防空壕ノ内、空間ヲ見出シテ女二人ヲ無理ニ入レテ貰ヒ、私等二人ハ入口ノ方ニ頑張ツタ、此ノ日ノ爆撃、艦砲射撃ハ実ニ猛烈ヲ極メタモノデ我方ノ抵抗ナキヿヤリアナ」群島ハ軍事施

設ト云ハズ、民間施設ト云ハズ、敵ノ思フガマヽ、自然若松ニ打チタヽカレタノデアル、

併シ吾ガ方ニ飛行機コソナケレ、過去何箇月カノ精兵ニカヽル陸軍部隊ノ対空防禦陣地ノ應戰モ甚ダ見ルベキモノアリ、高射砲、高射機関銃ノ彈幕誠ニ物凄キモノデアツタ、我等ガコサイパン島中ヲ逃ゲ廻ツテ居ル間悩マサレ、多クノ同胞ヲ殺シ、ソシ妻ノ死因ヲナシタ敵ノ艦砲射撃ハ実ニ此ノ日十時頃ヨリ開始サレタノデアル、オ宮ノ大太鼓ヲ打ツ様ナドドドンドント響ク音其ノ度ニ地下迄ユラ〱トユラグ初メ私ハ之ハ近クノ野砲陣地カラ打出ス時ノ衝撃ニ違イナイト思ツタト云フノハ、私ニハドウシテモ發射音ノミ聞エテ彈着音ガ聞エナカツタカラデアル、所ガソレハ山ニ反響ニテ彈着音モ發射音トマギレ聞エタモノラシイ、附近ニ打チ込マレル度ニ地面ガグラ〱トユレテ砂ガバラ〱落チル、壕ノ人々ハ其ノ度毎ニ打チ伏ス、頭ガキン〱クラ〱スル、如何ニ虚ヲ突カレタトハ云ヘ、空襲ガ始ツテカラ三日目ダ一体友軍機ハドウシテ居ルノカ、晝飯時ハトウニ過ギテモ壕ノ中ノ人ハ誰モ飯ヲ食ベヨウトハシナイ、水ヲ呑ム

人サヘアレダ、其レ程誰モ心ニ餘裕ヲ持タナイ、口ニバイヲ合ンデ居ル者モアル、コレハ至近彈ガ落下シタ場合ニハ口ヲ開ケ目ト耳ヲ両手デ押ヘ打ツ伏ス可シト云フ信條ヲ固ク守ツテ居ル人デアル、其ノ中ニ警防團本部ノ若イ連中ノ聲デ「飯ダ炊キ出シダ順次ニ取リニ来イ」ト云フ声ガ聞エル、私等ハ握飯ヲ持参シタノデアルガ、後ノ用意ノ為ニト貰ツテ食フ、飯ト塩ダケデアルガ誠ニ美味イ、嗚呼燃エテ居ル、「アスリート」工場地帯、「ガラパン」部落、サイパン一円濛々タルモノデナイカ、社宅モ何処カ燃エテ居ル、総テガ身体一ツトナツタ、セメテ身体大事ラウ、正午過ギノ射撃モ猛烈ダ、誰カ二三人、近クノ壕カラ飛出シテ大声デワメキ乍ラカケテ行ク、音ガスル、ヒヨイト首ヲ出ストスグ前ノ道路傍ノ壕ニ至近彈カ直撃彈ヲ喰ツタト見エテ壕ノサシ渡シノ横木ガ皆穴ニ落込ンデ天井ニ向ツテ居ル、アチラカラモコチラカラモ、ドスンタタツト云フ音、地球上ガゴウ〱トシテ居ル、時々砂煙ガモウ〱ト穴ニ入ツテ来ル、何処カラカ斜森所長ト田村サンノ聲ガ聞エル、今日ハ警防部隊ノ歩哨ガ穴ニ入ツテシ

マッテ外ニハ全然見エナイ様ダ、ヤカテ四時ダ、ヤット壕カラ飛出ス、工場モ社宅モ
社宅街モ一面ノ火災ダ、私ノ社宅ノ近所カラモ火ノ手ガ見エル、兎モ角妻ヤ窪田夫人
ヲ連レテ南興事務所ニ走ル、又一発喰フ、事務所附近ニハ艦砲ノ大穴ガスゴイ、口ヲ
開ケテヰル直径十米、深サ五米モアルカ、アッチニモコッチニモアル、衣ミ友達デア
ル吉田社医モ療養所ノ壕デ直撃弾ヲ蒙リ死亡ノ報ヲ受ク。暗澹タリ。最初ノ犠牲ダ
合掌ー、コノ様子デハ夜モ又艦砲ヲ受ケルカモ知レヌ、兎モ角此処デハ何トモナラヌ
カラ女ハ「ヒナシス」ノ横穴ニ入ルニ限ルト連レテ行ク、途中デ重役阿部課長、越年
円課長ニ逢フ今晩ハ東方面ニ逃ゲヌト危険ダト云フガ横穴ニ入ルコトヲドウシテモ肯
カヌ妻ヲトナリ什ケ案内シテ行クト、上田課長、大澤一行ニ逢フ、今晩逃ゲルカラ一
緒ニ行カヌカト云フ、兎モ角小高イ所ニ登リ、敵艦隊ノ様子ヲ見ルト、一旦ハ遠ノク
ガト見エタ敵ガ又ヒシ〳〵ト押シテ来テヰル、アッ「ガラパン」沖カラ「テニアン」
沖ニカケテ一面ノ大艦隊ダ、今晩ハ又艦砲射撃ヲ受ケル、見下ス「チヤランカ」ハ

火ノ海ダ、防空壕ニ入ル心算デ全ク身体一ツデ食糧モ持ッテ合セズ、重要書類モ持ッテ
来ナカッタ、コレデハ引返シテ持出シテ来ル餘裕ガナイ、武藤局始メ一行共議リスグ
「ヒナシス」ヲ越ヘ「パーパコ」方面ヘ避難ノコトヲ決定スル、一行ノ人数ハハッキ
リシナイガ兎モ角先頭ト最後ニ男ヲ置キ、女子供ヲ中ニ挟ンデ出発スル、十八時頃カ
、上田夫妻、小林夫妻、窪田夫人、二階堂、武藤、秋山、但野、大澤一家、浅沼一家
土屋一家、小宮山一家、一行ハ女子供ガ多イ、ソレデモ足ノ達者ナコトハ驚ク程ダ、特
ニ窪田夫人ナンカ脚気デ昨日迄病院通モヤットダト云フノニ良ク頑張ッテ歩ク、途中
二度バカリ休ンデ二十四時頃ヤット「パーパーコ」ノ水源地ニ到着、冷イ美味シイ水ヲ
ゴクリ〳〵ト呑ム、兵隊デ一杯ダ、未ダ地方民ハ見エナイ、上田大森内氏ガ此処ノ駐
在部隊デアル村上隊ニ吾々ノ這入ル病舎ノ借受ヲ交渉スル、ソノ中田村一家、山本
氏田泉一家、鈴木一家「ドンニー」行ノ途中、水ヲ呑ムタメニ立寄ル、皆喜ンデ吾
々ト一緒ニナル、ソノ内上田氏村上隊長ノ快イ承諾ヲ得テ、態々兵隊ノ這入ッテ居ル

310

叢ヲ空ケテ貰ヘズ、人間ガ多過ギルノデ二ツノ穴ニ分レル、小サイ方ノ穴ニハ田村一家
小宮山一家ガ這入リ、他五十五名ハ大キイ穴ニ這入リ寇ニ備ヘ一夜ヲ明スコトニナッタ
ノデアル

避難行（六月十四日　七月二十九日）

六月十四、五日（パトパオ）

斯クシテ吾々ノ逃避洞窟生活ハ始ッタ、洞窟ハ狭隘ナル為何モ彼モ真黒ダ、下ニ甘蔗ノ葉ヲ敷ク、何シロ五十五名ノ大家族デ而モ女子供ガ大部分ヲ占メルト来テ居ルノデ、食糧ヤ水ハ吾々少ナイ人数ノ男ガ確保セネバナラナイ、食糧ハ幸ヒ林上隊ノ厚意デ、水、罐詰等ヲ分ケテ貰ヒ、又其ノ他ノモノハ「チヤツチヤレ」ノ二農場、酒保分店カラ持ッテ来ル、水ハ「ハーパコレ」ノ水探地ガアル、水ト食糧ハ何トカナッタ、毎日三時半乃至四時起床一同ヲ便所ニ行カシメ、後ハ十六時頃迄洞窟外ニ出ル事一切禁止ダ其ノ退屈ナ事甚ダシイ、四時半頃ニナルトゾロゾロト手足ヲ伸シ、水ヲ取リニ行ク者、飯ヲ焚キニ行ク者「チヤチヤレ」ニ食糧獲得ニ行ク者、夫々割当ニ従ッテ出掛ケテ行ク、之ガ又一日中身体モ充分ニ伸ミ切レナイデ居ル丈ニ嬉シイモノデアル、此処ハ飛行機ノ通路ニナッテ居ルガ、爆撃或ハ艦砲射撃ノ目標ニナッテ居ナイ、コレハ洞ノアル山全体ガ裸山ニナッテ居ルタメ却ッテ逆効果ヲ及ボシテ居ルカモ知レナイ、ソレデ外レ弾ガ時々附近ニドスント来ル、「アアヘエニヤ」「オヒーシヤン」「チヤランクレ」方面一体ヨリ敵上陸ノ報アリ、後デ聞ケバ十四日ニ「アアヘエニヤ」ヨリ敵一部上陸シ、コレガ友軍ニ撃退サレテ十五日ニ「チヤランカ」一帯ヨリ大部隊ガ上陸シタラシイ。

六月十六日（パーパコ）

此ノ日ハ吾々一行カラ私ノ最モ親シキ先輩ト友人ヲ奪ハレタ日デアル、先ニ述ベタ様ニ吾々ノ洞窟ハ爆撃圏外ニアッタノデ男ノ連中ハ昼間日中デモ一寸偵察ノ名ノ下ニ畑ノ中ヲ馳ケ抜ケ、断崖ノ下ニ田林サンノ窟、或ハ水探地ニ降リテ行ク者ガアッタ、私モ此ノ日九時頃退屈ニ耐ヘ兼ネ、秋山、大澤、但野、土屋ヲ連レ水探地ニ降リテ行キ

直ガ側ノ耕作者ノ家ニ一休ミシテ身体ヲ拭イタリ、ルンツヲ洗ツタリシテ居タ、此
処デ田村サンニ、三日振リデ逢ツタノデアル、田村サンハ子供ノシヤツ、オムツ等ヲ
洗ヒに来タノデアツタ、ソシテ如何カネト聞イタラ、如何モ神経痛ガ出タラシイ、腰
ガ痛ンデ困ルト顔色モ悪カツタシ元気ガ甚ダナイ、聽テ洗濯シ終ルト、田村サンハ私
ヤート云ツテ直グ上ノ窟ニ帰ツテ行ツタ、コレガ見納メデアツタノデアル、私等モ全
部ヤル事ヲヤツタノデ、耕作者ノ家ニ出ロシテ居ルト、外ニ居ル大沢君ガ爆弾ダ、逃
ゲロト叫ンダ、コチラハ家ノ七サシノ下ニ居タノデ爆弾ノ方向ガ判ラズ思ハズ直グ隣
手ノ縁ノ下ニ打伏スト、ドスンメリ〳〵ハート自分等ノ居ル家ニ命中ダ、ヤラレタト思
ツタガ幸ヒ身体ニ異常ハナイラシイ、起キ上ツテ見ルト但馬、土屋ガアツチコツチニ
カスリ傷ヲ受ケテ血ガ吹キ出シテ居ル、併シ大シタ事ハナイ、取敢エズ大急ギデ附近
ノ設営隊ノ壕ニ入レテ貰ツタ、大沢君ノ話ニ依ルト敵ハ吾々ノ姿ヲ見付ケテカ、或ヘ
附近ニ遊ンデ居タ隊ヲ鶏ヲ見付ケテカ　一旦通過シタ敵爆撃機ガ又引返シテ落シテ行

ツタンダト云フ、吾々モスグ帰ロウト思ツタトタン又爆音ガ聞エル、身ヲ縮メテ居ル
トドスン〳〵〳〵至近弾ダ〳〵後ノ断崖ノ方ヲ見ルト、木モ草モ皆飛バサレテ一
面赤黒クナツテ居ル、嗚呼田村サンノ壕ノ前ダ、何時来タノカ酒精工場ノ田子サンガ
慌テ、其ノ附近ヲ走ツテ居ルノガ見エル、オーイト声ヲ掛ケタガ聞エナイノカ振リ向
モシナイ、爆音ガナクナツタノデ急イデ上ツテ行ツテ見ルト、無惨ニ四人ノ死骸ガ壕
ノ入口ニ横タハツテ居ル、其ノ一人ハ田村サンラシイ、猶爆弾ノ爆風デ顔ガ真黒ニナ
ツテ居ルノデ誰ヤラ判別ガツカナイ、オーイ〳〵ト声ヲ掛ケタガ一向誰モ返事ヲシナ
イ、コチラモ怪我人ガアルノデ兎モ角一應吾々ノ窟ニ引返シ、上田サンニ顛末ヲ報告
シ、一方武藤君ガ更メテ調査ニ行ク、其ノ報告ニ依ルト窟ノ入口ニ直撃弾ヲ受ケ、死
者ハ田村、二階堂及ビ小宮山君ノ父、田村サンノ長男ノ四人デ田村サンノ奥サンハ首
ニ破片ヲ受ケ相当重態デアルト云フ、其ノ中小宮山君ガ此ノ処置ニ就キ意見ヲ問ヒニ
来ル、取敢エズ窟ノ附近ニ埋葬ノ事ニシ、田村サンノ奥サンニ就テハ倉庫ノ山崎君—

〃

田子サント一緒ニスグ下ノ洞窟ニ来テ居タノデアル――田子サントモ相談ノ上早急手
当方法ヲ講ズル事ニ決シタ、時刻ヲ待チ、上田サント私トハ「チヤツチヤ」ノ奥宮君ニ
野戦病院ノ所在ヲ尋ネナガラ紹介ヲ頼ミニ行ク、其ノ際但野、土屋両君ノ創ニ入ッテ
居ル破片ヲ取ッテモラフ可ク一緒ニ連レテ行ク、幸ヒ野戦病院本部ハ直グ裏ノ神社ニ
アリ、丁度来合セタ田子サントモ打合セシテ今晩中ニ病院ニ入レル様手筈ヲ極メ、一
旦引返シ、又スグ私ハ武藤君ヲ連レ、奥サンハ武藤君ニ背負ッテ貰ヒ、小サイ子供ハ
女中ガ背負ヒ、長女ヲ私ガ連レ荷物ヲ持ッテ病院ニ行ク、
幸ヒ病院デモ快ヨク引受ケテクレ応急処置ヲ終ッテ、神社ノ壕ニ田村遺族一同入レテ貰
ヒ、後ノ事一切ヲ奥宮君ニ依頼シテ武藤君ト引返ス、ソレニシテモ二階堂君ハドウシタ
ノカ、「チヤランカ」カラ「パーパコ」ニ来ル途中足ヲネンザシタノデ、吾々ノ定ツタ
仕事モサセズニ外ニハ出サナイ様ニシ、専ラ足ヲイタワラセテ居タモノヲ、退屈カラ
出掛ケタノカ、ソレトモ吾々ノ窟ニ不安ヲ感ジ、ヨリ安全感ノアル田村サンノ窟ニ
行ッタモノカ、恐ラク後者デハナカッタロウカ、安全感カラ云ヘバ田村サンノ窟ノ方
ガ断崖ノ途中ニアリ、入口ニ落サレナイ限リ絶対大丈夫ダ、聞ケバ田村サンハ洗濯物
ヲ入口ノ木ニ掛ケテ居タタメ発見サレタノダト云フ、併シ入口ニ直撃ヲ蒙ッタ事ガ運
命ダト諦メ私ノ良キ先輩、良キ友ハ続々失ハレテ行ク、選ビモ選ンデ――、嗚呼

六月十七日――二十三日（パーパコ）

此ノ一週間ハ吾々避難民ニ取リ大イニ期待ニ満タサレタ期間デアッタ聯合艦隊ガ何時
「サイパン」ニ来テ吾々ヲ救助シテクレルカ、事実此ノ期間ニ於テハ聯合艦隊来ルノ
報続々入リ、吾々ヲ喜バセ緊張サセタ、敵ハ大艦隊ヲ以テ「マリアナ」群島ヲ包囲シ
ツヽアルガ、聯合艦隊ハ其ノ外郭ヲ敵ノ一船モ逃サジト包囲シ壮烈ナル戦闘ヲ行ヒツ
ヽアルモノヽ如クデアル。
事実吾々ハ遥カ海上ニ於テ艦砲ノ打合ヒヲ聞キ、空中戦ヲ見タノデアル、水平線上ニ
盛ンニ猛烈ナ高射砲火ガ上ル、敵機カ味方機カパーット燃エテスーット海上ニ没シテ行
ク、何時敵ノ包囲ヲ叩キ壊シテクレルカ、併シ陸上戦ハ余リハナバヽシク行カヌラシ

313

1. 豊南ハ敵ノ艦砲ト飛行機ノ掃射ニ依リ、手モ足モ出ナイラシク、僅々夜間ニ於テ日本軍ノ得意トスル夜襲ニ依リ豊南迄ゾイタ陣地ヲ奪還シツツアルノデアルガ、ソレモ時日ノ経ツニ従ツテ敵モコレニ対應スル戦術ヲ以テシ、照明弾ヲ花火ノ如ク打チ上ゲル、自分等ハ今度始メテ照明弾ナルモノノ偉力ヲ見タノデアルガ、大ギイモノニナルト島半分程度ガ昼ノ如ク明ルクナル、吾々ノ避難行中ドレ丈コレニ悩マサレタカ判ラナイ。

コチヤランカレ方面ヨリ上陸シタ敵ハイアスリート」ヲ奪ヒコチヤチヤ」方面ニ廻リツツアルトノ知ラセヲ受ケタ、吾々ノ御世話ニナツテ居ル村上隊ハ最前線ニ出テ全滅セリトノ報ヲ得タ、吾々ハ暗然トナル、併シ吾々ハ此ノ期間中、食糧、水ニ就テハ何等ノ不安ガナカツタ、乾麺麭、他ニ温カイ味噌汁ニモアリ付イタ、ソレカラ二十日ニハコチヤチヤ」ノ酒保モ目茶苦茶ニ艦砲デ叩カレタガ、ソレ迄ハ色ンナ食糧ヲ取リ二行ツタモノデ、普通ニハ買ツテ居ナイ、グリンピース、松茸、練乳、罐詰モアツタ。

六月二十四日、二十五日（タラホン）

二十四日ノ夕刻村上隊（留守隊）ノ方ガ見エ敵ノ上陸部隊カイチヤデヤ」ニ廻リ当方面ニ進ンデ来ル模様ダカラ今ノ内ニ何処カニ移動シタ方ガヨクハナイカト云フ、甲逗準備ヲ整ヘ食糧モ各自ニ分散シテ「タラホン」方面ニ向フ、都合ヨク田辺牧場ノ谷間ニ水モアルシ、又ホダ避難民モアマリ見エテ居ナイノデ、谷川ノ入グ傍ニ、タコノ木ノ葉ノ屋根ヲ造リコヽニ腰ヲ落チタ。

1、信ズベキ友ノ遺骸ヲ残シツヽ、敵ニ追ハレテ落チ行ク吾悲シ

2、雪ヲクノアカヲ鮫川ニ流シツヽ吾等ガ行衛ヲ遠ク眺メヌ

3、鮫川ニホダシノ花ヒラ〳〵ト舞ヲ面白シ、故郷ノ花見ル心地シテ

4、十日目ニオヽ美味シイト呼ブ声ス、橙持テル妻ヲ見ル哉

5、遊山ニモ斯リモヨキ場所アリシクト初メテ知ルノタラホン」ノ奥

二十四日、二十五日ハコノ風景ヨキ牧場ノ谷間ニ過ミタガ吾々同様追ハレテカ、避難

ナイ、上ムラ候バコノマデ大ラ動ケナクナッタ夕暮四人夫人、田原一家郷人ヲ入レ事ト

夫ノ胸ヲタッテ来ナイカ病院ガ打ッテ来タ検査ヲ受ケ結果ハ

ヤ機能ヲ調ベイテ行ク

大日本帝国（カラ）ハ米英撃

トリケモコノ極乗ッタ敵ガ愛見ナレタラ

ジイ。機銃掃射ヲ浴ビセ、ケ、ク、

ハ水ヘ、アル。今回愛媛ニ来ルト、クカラコウシタ所ガ後ンデ感ジテ居ル

火上、多分今回ノ行動ニ入ッテ居タ。ソンデ男ノ重中ニ乗ッテ居ニ、

ソレアル此ノ日ハ夜モ更ケテ居タミ、ソイ十数レテ居タ。

ソレ上ムラ候バ、列車時間ニ遅ニ、今今ハ入リ込ムコトニ

数々ノ

ナイ、上ムラ候バ、コノマデ大ラ動ケナクナッタ夕暮四人夫人、田原一家郷人ヲ入レ事ト

夫ノ胸ヲタッテ来ナイカ病院ガ打ッテ来タ検査ヲ受ケ結果ハ

ヤ機能ヲ調ベイテ行ク

大日本帝国（カラ）ハ米英撃

トリケモコノ極乗ッタ敵ガ愛見ナレタラ

ジイ。機銃掃射ヲ浴ビセ、ケ、ク、

ハ水ヘ、アル。今回愛媛ニ来ルト、クカラコウシタ所ガ後ンデ感ジテ居ル

火上、多分今回ノ行動ニ入ッテ居タ。ソンデ男ノ重中ニ乗ッテ居ニ、

ソレアル此ノ日ハ夜モ更ケテ居タミ、ソイ十数レテ居タ。

ソレ上ムラ候バ、列車時間ニ遅ニ、今今ハ入リ込ムコトニ

数々ノ

夕ガ、何分ニモ千人乗ッ、名以上、千五、六百人ヲ乗入ッテ居ル一ツ今朝動ク場所ガ

モ三ツ乗ッ乗ッ居ル、来ル上田サン、松ト三人デ重役ニ教ヘ、ク、ク、

今夜八時、愛媛、田舎、鈴木氏、宇和島、海軍、他、海軍、引揚スル、デ、ヤラ、ハカ、警防団

ミタ、アル一、比較ジッサラ「千人乗ッ」ヲ至ル、比較ニハ重役、来ル、同郷人、

高松ニ行クト、ソコ、ト、ル、ノ、デ、初ノ停ヲ、ル、ハ、大分、田舎牧場ニハ木材ヲ原

ル清水「カ、ラ、ハ」、ラ、ハ、ヨ、ク、ト、千人乗ッ、ニ、フ、ト、ナ、リ、、比較ガ、入乗ッ、ニ、ク、タ、ラ、所、近、

多分今回ノ行動ニ入ッテ居タ。ソンデ男ノ重中ニ乗ッテ居ニ、

ソレアル此ノ日ハ夜モ更ケテ居タミ、ソイ十数レテ居タ。

ソレ上ムラ候バ、列車時間ニ遅ニ、今今ハ入リ込ムコトニ

数々ノ

国立公文書館
National Archives of Japan

夕方ニナルト水ヲ汲ミニ行ク者、食糧確保ニ行ク者、近クノ千人壕ニ重傷連ト連絡ニ行ク者、或ハ甘藷ヲ取リニ行ク者、三ヤ五々出掛ケテ行ク、我々ガ甘藷ノ美味サヲ知ツタノハ此処デアル。ウイスキーモ他ノ食糧ト共ニ何トカナツテ居ル。

重傷連ハ一般ニ前途悲観論ダ、例ノ我今艦隊包囲論ヲ主張シテ千人壕ニハ情報ガ全然入ラヌヲシク誰モ信ジナイ、コノ必間デ逢ツタ支廠ノ福永氏ノ話ニ依ルト数次ノイマリアナシ沖航空戦デ味方ハ素晴ラシイ戦果ヲアゲテ居ルラシク、二十七日ニハ八日ハ思事。二十九日ニナルト敵ハ怒ツタカソロ〳〵艦砲ヲ打ツテ来ル「ヂヤラシカ」ノ外山理髪屋ノ弟ハコノタメ負レ、妹ノ和子サンハ傷ツイタ。附近ニ進ゲテ来テ居タ艦船工兵隊ノ一人ガキヲ見付ケテ殺シタガ、火ヲ焚ケナイノデ刺身デ食ツタ、非常ニ美味イ、女連ハモ初メハ嫌ガツタガ、終ヒニハモツト喰ヒタイ等ト云フ、コレガ三十日ノコトデアル。

七月一日ニナルト正午頃カラ物凄イ艦砲ト飛行機ノ爆弾ダ、ソシテ機銃掃射ダ、皆生キタ心地ガナイ、ソレニコノ壕モナイシ、掃射ヤ破片ハサケラレナイ、

妻ハ遂ニ此処デ此ノ日腰ニ破片ヲ受ケテ相当ノ出血デアル。猛烈ナ艦砲射撃ノ中ヲ私ハ取急ギ近ノ処置ヲシ静ニナルノヲ待ツ、時計ハ十五時頃ダ、態テナ大時スギニナルト上田サン始メミンナ起ケ出ケテ来ル、其処デミンナ協議ハ上又明日モ今日同様射撃ヲ受ケル恐レガアルカラト云フノデ、コノ公向ハ解散ノコトニ決定シ、私夫婦、山本、田林夫人田原ノ鈴木一家ハ千人壕ニ入レテ貰フコトニナツタノデアル。

妻ハ山崎サンニ背負ツテ貰ツテ、ヤツトチ千人壕ニ行ツテ見ルト驚ク程満員ダ、警防団デモ重傷連モ我々ノ入ルコトヲ承知シナカツタガ怪我シテ居ルノト婦女子先人ト云フ理由デヤツト入レテ貰フ。コレカラ私等夫婦ノ全ク苦難悲惨ノ生活ガ始ル。

七月二日三日四日（カラベラ）千人壕ニテ）

翌二日辛ヒコノ壕ニハ「ヂヤランカ」病院ノ一行ガ居ルノデ兵先生ニ頼ミ妻ノ傷ヲ治療シテ貰フ、何ダコレ位ノ傷ニ負ケテハナリマセンソ奥サン傷ハ浅イ」ト云フ、

居ル居ルコノ壕ハマルデ興發ノ壕ノ様ダ勿論外部ノ人モ居ルガ主ナル人々ハ
藤原重役、斜森所長、越年田氏、兵頭氏、高野氏、石黒氏、鈴木梅川氏、氏家、神山、
三好、伊藤助氏、武藤三、酒井所長、阿武課長、中野大、何処ヘ行ッテモ、知ッタ顔
バカリデ一別以来ノ挨拶ニ切リガナイ。コノ壕ハ大体四段ニナッテ居テ、最上段カラ
底ノ方ヲ見降スト人間ガ小サク見エル、ハルカ向フ側——全ク遥カト云フ文字ヲ使ト
度イ程コノ壕ハ広イ——見渡マト断崖ノ途中ト云ハズヤリト見エル空間ニ人間ガ多
ナリトナッテ居テ、マルデ動物園ノ小猿ノ群ノ様ダシ、地獄デ裁キヲ待ツ亡者ノ群ノ
様ニモ見エル——二日無事
重役一行ハ一日談ス——三日——コノ日ハコノ壕ニ取ッテ怖シイ日デアッタ。コノ壕
モ電波探知機ニアッテカ、或ハスパイニ依ッテカ、敵ニ発見サレタト見エシキリニ至
近弾ヲ落シテ行ク、入口ニ居ル者ハ破片ガ飛ビ来ルノデ驚イテ夫々奥ニ避難
スル。

ソノ内十五時頃デアッタカ全ク偶然デ一発ノ爆弾ガ入口屋根ノ岩盤ニブツカリ、ソ
レガ上ッテ壕ノ中央部モ一番質イ段ノ人間ノ多数居ル真中ニ落チタ。光光ガパッパ
ト目ヲ射ルト、顔イテダッダッダット云フ爆発音ダ壕内ハ真暗トナル、人々ノ叫喚、
子供ノ泣キ叫ブ声ガ聞エテ来ル。地獄ダ!!! ヤガテ明ルクナッテ来ルト下ハマルデ地
獄絵図ダ、死体ハゴロ〳〵コロガッテ居ル、首ガチギレタノガ居ル、足ガ一本コロガ
ッテ居ル。思ハズ顔ヲソムケル。
コノ日死者十七名負傷者無数ト云ハレタ、会社会計ノ本日君モコノ日ヒクナッタ。夜、
夜ニナルト関係者ガ仮埋葬ト死体ヲ運ビ出シ仮埋葬ヲスル——合掌
藤原重役ハ阿武課長、越年田、高野、石黒ノ一行及ビフテヤランカ警防団ノ一行ト
コノ壕ニ見極メヲツケ深更ニ壕ヲ出テ「マッピー」方面ニ向ッタト翌日ニナッテカラ
聞イタ。コノコトハ所長ヲ知ラナカッタノデアル。之ガ重役一行ト最後ノオ別レデア
ッタ。七月四日ハ前日ノ事件ニモ拘ラズ、時々至近弾ハ来ルガ割合無事デアッタ、処

が夜ノナカ時頃ニナツテカラ支廠ノ上船サン一行ガ見エ、敵上陸部隊ガ近所ニイテ来タカラ、此処ヲ解散シテ貴ヒ度イ、西海岸ハ危険デアルカラ東海岸ガヨイト思フト云フ、ソウナツタ以上已ムヲ得ナイ事デアルガ、興亜産業員ハ固ツテ最后ノ行動ヲシタラトウカト進言シタノデアルガ、重役一行既ニ去ツタ後デ又ミンナノ行先モ大体一箇所ニナルダロウカラソレカラ一緒ニ行動ヲ起シテモ遅クナイダロウト、進言ハ容レラレナカツタ。

其処デ日本人トシテ最後ノ決意「米ニテ見苦シカラザル様」一言アリ、次ニ梅川氏、北林警防団ノ挨拶ガアリ解散ノコトニ決ツタ、ソコデ止ムヲ得ズ夜食ヲ済マシ思ヒ〳〵悲壮ナ思ヒヲ懷キツヽ壕ヨリ出ル。

愈々最後ダ、私等モ此処デ死ヌコトニナルガ「此処デ殘ツテ自決スルカ」妻ニ訊ク、

「歩ケル丈歩イテ生キラレル丈生キマス」ト云フ「ソウカ、夫レデハ歩ケル丈歩イテ見ヨ」ソコデ山本長等ト相談ノ結果月見島方面ニ疎開イニ行クコトニ決メル。人間

ノ一念ハ恐ロシイモノデ起キルコトモ人キヲ借リル妻ガソロ〳〵ドヲ歩ク、途中壕ニ引ツカヽリ、艦砲ニ見舞ワレドキラ「カラベラ」モ十五夜ノ新月ダ、此処迄来ルト妻モ精魂盡キタト見エテ動ケテ来レト云フ、止ムヲ得ズ道端ナ場所ヲ探シテ一夜ヲ明ス

七月五日（「カラベラ」海岸防風林ニテ）

夜ガ明ケテ見ルト「カラベン」ノ中林乾屋ガ居ル、色々話ヲスル食糧モチ麺麭ガアルタダ水ガナイ。

「サイパン」ノ山川草木皆玉砕ガ物ト思ヒシニ水ヲ掬ムニモ決死行ナリ。

此処モ又吾ヲ容レルヤ山川ヨ、何レノ日ニカ吾等ニ帰ルヤ

大日ハ朝カラ小銃ノ音ト機銃音ガ聞エル、夫レデモ別ニ気ニ止メズニ居ルト、艦砲モヤツテ来ル、大敵ニ行ツ様ナ音、地鳴ヲ様ガス様ナ音、本当ニ物凄イ音ダ、

午后ニナルト小銃、機銃ノ音ガ益々近クニ聞エル、敵ノ戦車隊ガ実近ニ来テ居ルト云

ラ、トンノ〳〵月見島方面ニ逃ゲテ来ル。私モ止ムヲ得ズ食糧等ヲナルタケ少ナクシテ身軽ニナッテ逃ゲ出ス。処デイヨノ〳〵月見島ノ家迄来ルト「バナデル」ニハ友軍ノ矢ガ居テ、民間人ハ一人モ「バナデル」ニ入レヌト云フ、サレバト云ッテ、此ノ辺ハ道不案内デ山越モ出来ズ、マゴ〳〵シテ居ル内ニ敵ニ圍マレテアッタノデアル。

万事休スー、私ハ妻ト共ニ断崖ノ上ニ立テ遥カ海ノ彼方ヲ眺メテ最後ノ一本ノ煙草ヲ喫ンダ。

妙案ハ浮バナイ、彼方ヲ見ルト既ニ漕ッテ、ペコ〳〵頭ヲ下ゲテ、煙草ヲ貰ッテ居ル者ガアル。漕ハレテ男ハスパイニ使ハレ、女ハ彼女ノ弄ミモノニサレルノカ、ソンナコトカ日本人トシテ忍ビ出来ルカ、下ハ密林ダ、コヽハ海岸ノ断崖ニ至ッテモ、下ハスグ海デナク又一段中段層ガアッテ其ノ下ガ海ダ、月見島ガスグ下ニ見エル、ヨシ！密林ノ中ニ飛ビ込メ、死ンダ時ハ死ンダ時、生キテ居タラ又方法ガアロウ。

「飛ビ込ムンダ」妻ニ叫ブト同時ニ妻ヲ押シテ谷間ニ投ゲ込ム様ニシテ、スグ其ノ後カラ私モ飛ビ込ンダノデアル。

不幸ハ岩礁ダッタ、妻ハ腰ヲ打チ、私ハ尾骶骨ヲヤッテ立ツ事ガ出来ナイ、ヤット上カラ見エナイ岩蔭ニ身ヲ寄ス。アタリヲ見ルト死体ガアッチコッチニアル、子供ノ泣声ガ聞ケル。ソノ内暗クナル。コウシテ一夜ヲ明ス。

七月七日 ―十九日（妻ノ死）「カラベラ」海岸断崖中段デ

水ガナイ、二人共立ツ事ガ出来ナイ。コノ海岸ニハ何処カ出水ガアルラシイガ、ソノ水ヲ掬ミニ行ケナイノデアル。食糧ハ幸ニシテ此ノ崖下ニ飛ビ込ム時袋ヨタノデ干麺麭ガ二袋程落チテ居ルノデ夫ヲ拾ッテ喰フ。又一日暮レル、幸ナコトニ私等ノ寝テ居ルマグ傍ノ断崖ノ上ニ路ル小道ガアッテ、其処ヨタ方ニナッテ敵ノ艦砲ガ止ムト食糧ヲ取リニ行ク連中ガ通ル。私ハソノ一人ニ呼ビカケテ事情ヲ話シテ水ヲ掬ンデ来テ貰フ。御礼ニ金ヲヤルト要ラナイト云フ、後ニ私ガ足ガヨクナッテカラ出水ヲ掬ミニ行ッタガ、又並大低ノ困難サデナイ、二人ハカリ、断崖ノ下デ、ヤット所ト共ニ掬

ミエテル程シカナイノデアル。私ハ此ノ時程人間ノ有難サヲ感ジタコトハナイ。

八日ニハ工場ノ岩代一家ニ逢フ。六日防風林ノ中デ機関銃デ死ンダ高橋留数ノ遺族ヲ取リニ行クト云フ。知ッテ居ル人ガ近クニ居ル事ガ判ッテ頼モシク思フ。

九日ニハ敵ハ再ビ海岸一帯ヲ掃蕩シ、スグ側ヲ通ル、サット五百人程度ダ、私等モ道路ノスグ傍ニ寝テ居タノデ発見サレタガ、二人共歩行出来ナイノデソノママ、ニサレル、敵ハ廃ル廠場デアル、浴ル迄此処ニ居テ、浴ッタラ登ッテ来イト云フ、ゴーヨーク、方再岩代一家来リ、掃蕩ハ発レタガ危険ダカラ抜出スルト云フ、ソシテ自分ハ女子供ガ多イシ、捕虜ニナッテモ止ムヲ得ナイ、自決ト出来ナイト云フ、私モ返ス言葉モナク、逝ケル丈、逝ケナサイト云フ、丁度工場ノ人ガ一緒ダッタノデ其ノ手ヲ借リテ、妻ヲ断崖ノ中途ニアル窟ニ入レル、二人入ルニ丁度好イ窟デアル、夫迄ハ雨ガ降ッテモ木ノ下ニ隠レテ、二人共寝タママデアルガ、コノ間水ガナクナレバ出水ヲ掬ミニ行キ、出水ト全ク絶縁サレテ過シタノデアルガ、コノ間水ガナクナレバ出水ヲ掬ミニ行キ、出水モナク塩水ヲ飲ンデ一日ヲ過シタコトモアリ、食糧不安ヲ覚エ痛イ足ヲ引キズッテ断崖ノ上ノ防風林ニ落チテ居ルモノヲ拾ヒニ行ッタ、ソレモ大部分ハ雨デ腐ッテ居ル中デ其ノ内カラ拾ヒ分ケルノデアル、コノ間水ノ有難サ、水ノ無イ辛サヲ初テ知ッタ。

妻ニモ水モロクニ飲マセナイデ死ナシタノハ全ク可哀想デナラナイ。

妻ハ繃帯ノ捨ロト断崖ガラ飛ビ込ンダ時ノ腰ノ痛ミデ段々衰弱シテ来セテ行ッタ、腰ハ折ッタ時ニ骨ヲ折ッタカドウカ判ラナイガ、身体ヲ少シ動カスト痛イ〳〵ト云フ、

食糧モ急ニナクナッタ、モパンモ、ニッカニッカシカ喰ハナイ、唯水バカリ恋シガル、ソノ水モナイ時ニハ、水筒ノ口ヲ開ケサセナイデ、チビ〳〵ト吸ハセルノデアル、

夫デモ時々雨ガアッテ、タコノ木カラ一升、二升ト天水ガトレテ其ノ冷タイ水ヲ飲マセタ時ニハ、オーオイシイノ〳〵ト云ッテ本当ニ嬉シソウデアッタ。

十八日ノ午后デアル妻ハ何ヲ思ヒ出シタカ突然自分ノ幼イ時代ノコト、私ト結婚スル迄ノコトヲ順々ト話シダシタ、自分ハ非常ニ果物ハ好キダガ、今迄ハ思フマ、ニ食ベ

タコトガナイト云フコト、今度人間ガ死デモ肉体ニ帰ッテ果物ヲ思フ存分食ベテ死又コト等モ非常ニ音楽的ニ一人デ三時間バカリモ喋リ続ケタ、ソシテ一体ドウシテ肉体ニ帰レルノカ、臓器ニ関シタ物全デモ帰レル筈ト、ソヨウニ信ジタ、デアル。貴ト多勢合ノ帰ロウト云フトミンナ考ヘ立ムーデアル。

傷ツキ悲ミヲイタツ者ハ又運命ニ逆ク来ツルモノ哉
カラバラニ咲ク山ヲ眺メツ、吾ハ寂シク夢ヲ見ル
今日モ明日モ知ラズ今ト知ラズシテ夢ハオサナ物語セリ
如何トモ金永ウヘ母ニ會ヒ果物食ヒテ死ニ度ミト云フ
妻ハ又セメテ水アル公園ニテ故里眺メテ死ニ度ミト云フ

今ニシテ到ドハ人ハコノ時死ノ迫ッタコトヲ感ジテ居タノデハナイカトモ思フ、人間ハ好ノ機會ヲ失フト必ズ死ネルモノデナ人。死ニソコネタ人間程生ニ執着ヲ持ツノ、果ノ執着ガ加減ガ効ド動物ニ近イ、如何ニシテモ生キ度イト思フ生ノ前ニハ何物モナイ、

十九日十五時頃食糧殺リヲ帰ッテ見ルト妻、友ガ相撲ニ更イ、何カ話カケテモオ、ロ、ガト頂戴ニカシナイ、怒ッカイ、荒イ言モトノハニ出テ居ル、私ハ相撲ニ流テタ、モ、施ニ様ガナイ、幸ヒ前級取ッタ天水ヲ云フ優ニ充分飲マセル、唯見テ居ル丈デアル。ソガ平常ナラバ簡単ニ沿察出来ル筈ナノダガ、ナ、時寝ニ永眠タ、沈ンニモ泣カレスト此ノ事ダ、来モ出ナイ、仕様事ナイ、厚ク腹帯ヲ巻キ直ス身体ニカラ、夏ノ風呂敷ヲ腹ニカケテ水ヲ茶碗ニ上ガ合掌スル、妻ニ元ロタシタ、ハタイタロウ、然シ此ノ様ナ悲惨ナ死ニ直面シタ人ハ少ナイデアロウ。

上ムラ峠ガ死ルト断ズルコトヲ考ヘ敵ハ既ニ、ハナデルシニ迫人ッテ居ル関係上、逆コーヌヲ思リ出ス降レハ、ヤ、ガタシカ西ニ進レントシタ、相撲相手モチロン、此ノ時程心細ナヲ感ジタ事ハナイ、新クミテ人ノ不ノ敵ノ思ハ愛ヲ通ケ山側ヲツタッテ「カクレラ」ノ金鑛跡ニナッテ居ル洞窟ノ人口迄来テ思ミテ居ルト、ドウモ山本サンラシイ声ガ聞エル、山本サンハ呼ブト大変ニウガ、山本サンハチ人嫌ガ

別レタ切リハナレ〳〵ニナッテ居タノデアル、田村夫人一家、田原一家ト一緒ニ居ルト云フ一ロノ食糧壕ニ食糧ヲ取リニ来タノト暗然逢ッタノデアル、事情ヲ話シ一緒ニオラシテ貰フコトヲ依頼スルト、快ク引受ケテ呉レタノデ又引返スト間イテ見ルト私等夫婦ノオッタ処ノスグ近クノ洞窟ラシイ、夜ハ危険デ洞窟ニ近寄レナイノデ断崖ノ上ニ一夜ヲスゴシ、明朝帰ルコトニナッタノデアル。

七月二十日―二十八日（敵ニ收容セラルルーカラベラ海岸洞窟）

洞窟ニ入ッテ見ルト田村夫人、田原夫人及ソノ家族ガ居ル一刑以来ノ再会ヲシ、妻ノ死ヲ話スト驚キ悼ンデ呉レル。

此処ノ生活ハ吾々ノミ避難行中最モ安全無事ナ生活デアッタ、夕方ニナルト、山本氏田原サンノ弟ト私トニ人デ食糧ヲトリニ行ク、ソシテ先ズ甘蔗畑ニ入リ、此処デ一時間バカリ〳〵ムシリ〳〵食フ、ソシテ米ヲ背負ッテ帰ルト翌朝近崖ノ上ニ寝テ夜明ルクナルト、ソロ〳〵洞ニ帰ル之ガ又非常ニ楽シイモノトナッタ、一方女ノ

子ハ薪カラ水ヲ取リニ行ク、此処デハ穴ガ深イノデ夜ニナルト飯ヲ炊ク、ソノ飯ノ味ガ何トモ云ヘズ美味シイ、米ハ友軍ノ第一線分米ダ、オカズハ南瓜カ、ヤヤエンドウノ味噌汁ダ、山羊ヲ殺シテ来ヨウ等ト相談スル。

コノ中デ悲惨事ハ曩ニ田村サンノ少サナ女ノ子ガ病死シ、私ガ行ッテカラ田原サンノ三ツニナル女ノ子ヲ扼殺シタコトデアル、コレハアマリ女ノ子ガ近クノ所近カラ文句ガ出テ敵ニサトラレルト云フノデ止ムヲ得ズ絞メ殺シテアッタノデアル。

コバナテルし デハ四才以下ノ子供ヲ文句ナシニ、全今デ殺シタト云フ――

今度ノ戦争ノ生ンダ最モ大キナ悲惨事ノ一ツデアル――

山本サント私ハ田原サンノソノ子ヲ背負ッテ岩カゲニ埋葬シ合掌シタ、コノ洞窟ノ生活モ然ニ永クハ續カナカッタ。

二十七日ハドコノドウシテ漏ギ付ケタカ敵ノ狩出ガヤッテ来タノデアル、怒ラク前ニ聞ソタ首ノ教告ニヨルモノダロウ、ソシテ呼ンデ居ル声ハ會社ノ篠原君ト支廳ノ岩佐

サンダ、途端ニ私ハ妙ナ気持ニナッタ、コイツ等ハスパイトハ行カナクトモ敵ニ懐柔サレテ手先トナッテ居ル、広イ意味ノスパイダ、隠レロ〜〜ト云フノデ我々一行ハ暗イ処ニ隠レル、連中モ容易ニ暗イ処ニ入ッテ来ナイ、ソレデモ去リヤラズ、何カ民間人収容所ノ設備ノ整ッテ居ルコト、既ニ一万人モノ収容者ガ居ルコト興発デハ上田、馬場サン始メ大勢居テ、ミンナノ来ルノヲ待ッテ居ルコト等述ベテタ、ソノ内様東君ガ「小林君〜〜」ト呼ビ「俺ノ声ガ聞ケナイ筈ガナインダカ」ト云ッテ居ル、途端出テ行ッテ対決シヨウト思ッタガ我慢シテ居ル、コノ日いろは楼ノ一家其他十数名コノ壕カラ連レテ行カレタ、其ノ翌日、昨日ノ様子カラ見ルト今日モ亦来ルト云フノデ、女子供ハソノ儘置キ場合ニヨッテハ収容サレルコトモイ、ダロウト云ヒ 私ト男ハドウシテモ埋ヘラレルコトハ出来ナカロウト云フノデ、山本サント私ト他新作者一人ト逃ゲルト云ッテモ、遠クニ行クコトモ知ッテ危険ナノデ近クノ暗イ穴ノ中ニ入リコム、ソウシテ九時頃ヤッテ来タノデアル、洞ノ中デハ岩佐氏ガ色々ト女子供ヲ

部隊ニテ居ル声ガ聞エル、女達ハ竟ニ収容サレルコトニ同意シタラシイ、私等ハ息ヲ殺シテ居タ、ダカトウ〜〜見付カッタ、岩佐氏ガ我々ヲ居ル暗イ穴ニ入ッテ来タ、マッテヨスッタノデアル、出ヨウ柳マコウ、ソシテ収容所ノ実状ヲ見ヨウ、場合ニヨッテハ死又ハソレカラデモオソクハナイ。

ソレデスグニ荷物ヲ取リニ洞ニ引返シ、出ル途端ニ足ガ上ッテ眞逆様ニ穴ノ中ニ落チコミ頭尾等アソテ、コッチ怪我シタノデアル、其処ヘ婦人居ガヤッテ来テ抱ヘテ呉レ荷物ヲ持ッテ貰ヒヤソト断崖ノ上ニ上ッタノデアル。此処カラ「マタンシヤ」「ガラパン」ヲ廻ッテ「ススツペ」ノ収容所ニ来タノデアルカ、途中ノ惨憺タル「マタンシヤ」「ガラパンシ」ノ焼野原ヲ見、或ハ海ロノ何百隻トモ知レヌ敵艦船ヲ涙涙茫然タルヲ得ナカッタノデアル。

収容所ニ来テ見ルト居ル〜〜知ッタ顔ガ嬉々寄ッテ来ル、試ニマブシキ限リデアル、コノ時新庄氏ノ炊事長ノ二テ居ル九炊事ニ行キ味噌汁ノ御馳走ニナッタ時ノ美味サ

今ヲ忘レラレス。

私等一行八十二人事ニ編入セラレ地面直接ニ寝ムミロヲ敷イテ憶フ、夜後家、武藤、

秋山、但野等見舞ニ来ル、私ノ苦難ノ行路ヲ話ス。コヽデ一先ヅ遮進行ノ一編ヲ終ル

又續ケテ收容所ノ記ヲ書キ度イト思フ。

（昭和十九年十一月二十一日）　收容所ノ中ノ地留所ニテ